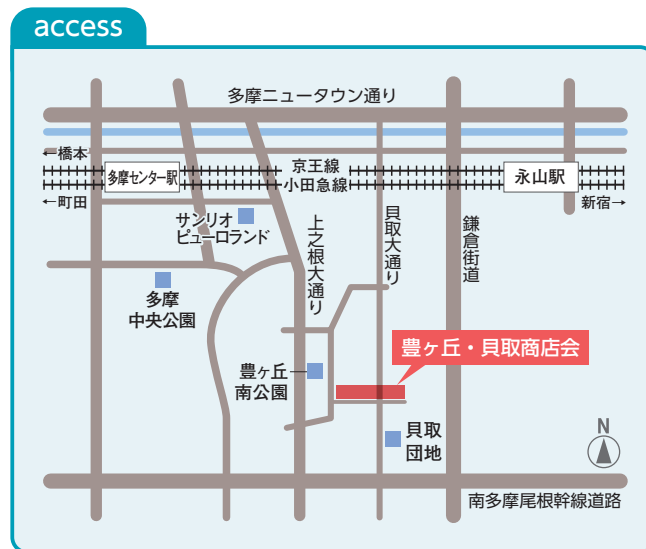




地域の盛り上がりが事業者にも還流する そんな好循環をつくりたい

豊ヶ丘・貝取商店会（多摩市）

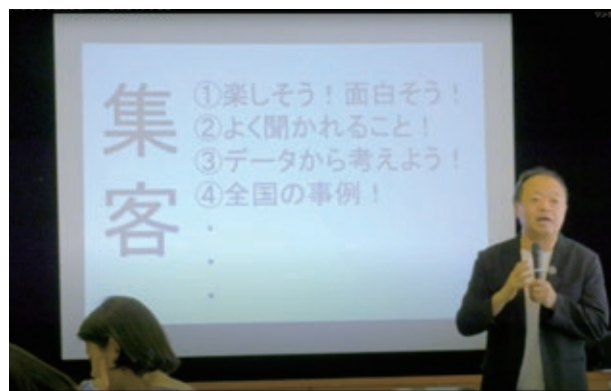


多摩市貝取 4-3-1

<https://tamashimachizemi.wixsite.com/home>

活用した事業

- ・商店街パワーアップ作戦



商店街の活性化と個店の経営繁栄をめざし、まちゼミを導入。専門家からは、実施のノウハウ、広報や顧客の獲得方法など多くの助言を受けた。

体操教室の集客のために まちゼミに参加

国内で最大規模の団地、多摩ニュータウン。団地内の豊ヶ丘・貝取商店会は、入居が始まった1970年代から地域住民の生活を支え、現在も20店舗近くが営業中だ。その一角にある「ベアスポーツスクール」は、体操競技の選手として、全国高等学校総合体育大会、全日本体操競技選手権大会に出場された檜山和真さんが運営する体操教室。開業は2023年5月と比較的最近だが、「多摩市まちゼミ」実行委員を務めるなど、早くも地元のために積極的に活動している。

「まちゼミ」とは、商店街のお店がプロならではの専門知識や情報を参加費無料で教えるミニ講座で、全国的に展開されている個店と商店街の活性化事業だ。当商店街でも2022年から導入の準備を始め、2023年に1回目を開催した。檜山さんも、商店会長からの声かけで2回目から参加。「開業したばかりで集客に苦労していたので、認知度を上げたくて」親子ストレッチ講座を開講したところ、受講した子どもが入会するなど、その効果を実感したという。

まちゼミのコラボ講座を通じて 新しいつながりが生まれる

2025年で4回目を迎えた「まちゼミ」は、今や多摩市全域に拡大し、35講座を開講する規模になっている。当初、導入するにあたって「商店街パワーアップ作戦」事業を活用し、開催のノウハウなどを一から学んだ。以来毎年、専門家からの指導を受け、ブラッシュアップをはかっている。

檜山さんも専門家の研修を受講。「他の地域の事例紹介などもあり、参考になった」という。また、研修会で



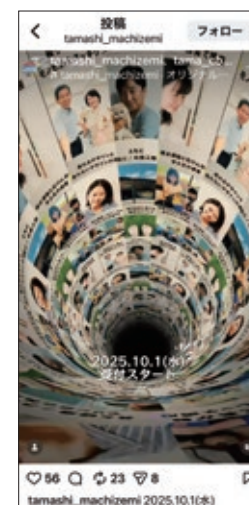
「多摩市まちゼミ」のWebサイト。2023年から毎年1回開催され、2025年にはコラボ講座を含めて35講座を開講。「来年は50講座をめざす」と檜山さん。



は参加者同士が仲良くなって連携できるよう、グループワークの時間が多めにとられた。こうしたワークを実践するなかで、檜山さんは、意気投合した参加者と三者でコラボ講座を立ち上げた。ストレッチと、モリンガ茶販売店による講話と試飲、理容室による眉メイクとパーソナルカラーレッスンを組み合わせた講座だ。さらに翌年は、石鹸を作る事業者とコラボして、ストレッチと石鹸作り、石鹸を使った足の洗い方講座を子ども向けに開講。すべて満員の盛況ぶりだった。「異業種でも、探せば親和性はあるものだなあと。多様な組み合わせができるので面白い」という。体操教室の一角にモリンガ茶の販売コーナーを設けるなど、横のつながりを通じて新たな連携による活性化にも挑戦している。

自らのスキルを活用し 実行委員として地域に貢献

檜山さんは、3回目からまちゼミ実行委員をつとめている。2回目の終了後、専門家から、伸び悩むチラシでの集客にかわってSNSの活用が提案され、その担当として檜山さんが抜擢された。「チラシは印刷や配布のコストがかかる。SNSならコスト削減に加えて若い層にもアピールできます」と、自らの教室運営で培ったノウハウを生かして、広報活動を充実させている。「課題はありますが、がんばって地域を盛り上げることができれば、まわりまわってうちの教室の盛り上がりにもつながると思うんです」と檜山さん。商店街を舞台に、街と事業者がともに育ちあう好循環を築くべく、奮闘中だ。



多摩市まちゼミのインスタグラムは、檜山さんらが実行委員としてコンテンツを作り、発信。個店向けにSNS研修会も始めたそう。



2回目のコラボ企画チラシ。まちゼミをきっかけに縁がつながるよう、参加者同士をマッチングする仕組みも作りたいという。